

# 令和2年度 豊中市総合計画審議会第二部会 第1回会議 議事要旨

- 日時 令和2年(2020年)10月9日(金)18時～20時00分  
場所 ZOOMによるWEB会議(事務局は第二庁舎3階大会議室)  
出席者 加藤部会長、水上委員、壬生委員、宮前委員、道上委員、宮川委員  
計6名  
事務局 都市経営部経営計画課：寺田、坂本、田中、島、上田  
傍聴者 なし  
案件 1. 前回の振り返り  
2. 2020年度(2019年度実施分)政策評価結果について  
3. その他  
資料 【資料1】2020年度(2019年度実施分)政策評価結果  
【資料2】令和2年度第1回豊中市総合計画審議会 議事要旨  
【参考1】第4次豊中市総合計画(本編)  
【参考2】第4次豊中市総合計画(概要版)

会議録 下記のとおり

## 記

### ●開会

### ●成立要件の確認

事務局：

「豊中市総合計画審議会規則」では成立要件として委員の半数の出席を必要としております。本日は委員総数6名中、6名の委員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。

本日、傍聴者は0名です

### ●資料の確認

(事務局より配布資料について説明)

### ●案件1「前回の振り返り」

部会長

「前回の振り返り」について事務局からお願いします。

事務局

(事務局より資料2に基づき、前回の振り返りについての説明)

部会長

ただいまの説明について、ご質問・ご意見はございませんか。

それでは、案件2「2020年度(2019年度実施分)政策評価結果について」事務局から説明してください。

●案件2「2020年度(2019年度実施分)政策評価結果について」

(事務局より次第に基づき、政策評価結果のシートを見る時のポイント及び本日の部会の進め方についての説明)

部会長

それではさっそくシートを見ていきます。

(第3章-1「快適な都市環境の保全・創造」シート(P22)について)

委員

質問ですが、ここは「みどり豊かなまちづくり」というテーマで、2つ目の○で「生産緑地地区の追加指定により生産緑地地区に指定された農地が微増しました」と書いてありますが、P58の施策の方向性シートを見ると、成果の部分に「市全体の農地の面積は減少しました」、また問題点・今後想定される事項に「2022年に生産緑地の営農30年が期限を迎える」とあります。これは私が仕事上専門にしている分野でして、2022年になると大量の生産緑地が期限を迎えて、宅地になるのではないかと懸念がかなりあります。いわゆる農家の方々が高齢化したり、農地を手放す人たちが増えてくると懸念があってこういうことが書かれていると思うのですが、実際には下がってきている面積を食い止めるために農地面積の追加指定の緩和がされていると書いてあるのですが、具体的にはどうされたのでしょうか。2022年に大量の営農地が期限を迎えることに対して具体的にどういう懸念があるのかをもう少し詳しく教えていただければありがたいです。

部会長

只今の質問に対して事務局はすぐには答えられないかもしれませんが、いかがでしょうか。

事務局

手元に資料がないので次回にご説明させていただければと思います。

ただ一部だけお答えしたいと思います。生産緑地の面積要件というのが500平米と生産緑地法で決まっていたのですが、平成29年に法改正がなされ、市町村の条例で規定すれば500平米から300平米まで生産緑地の指定を要件緩和できるようになりました。豊中市も平成31年1月に面積要件を300平米に引き下げるといって条例改正をしましたので、今までよりも少し狭い生産緑地も指定することが可能になりました。また、生産緑地の指定自体、長い間追加指定することがなかったのですが、面積要件の緩和を受けまして生産緑地の追加指定を行ったため、市全体としては

生産緑地の面積が増えました。2022 年問題の課題については、改めて担当部署に確認の上お答えしたいと思います。

部会長

総合評価の理由の最後の一文に「一部未達成の部分や課題もある」と書かれており、施策全体でB評価になっています。「一部未達成」の部分は、何が未達成なのか具体的に書いた方がいいと思います。

それでは次のシートに移ります。

(第3章-2「低炭素循環型社会の充実」シート(P23)について)

部会長

ここで少し気になるのは、一部未達成の部分があるのでB評価ということはいいいのですが、「環境にやさしいまち」だと感じている市民の割合が若干ながら増えているものの、半数ちょっとということと併せて考えたときに、P60の施策の方向性シートの中に書かれている「地球温暖化防止地域計画の推進」、「地球温暖化対策実行計画の推進」というだけで今後5年間大丈夫ですかという気がします。温室ガス排出量の13年度比でデータは出ていますが、市民の意識はあまり変わっておらず、少し足りない部分があるように感じました。防止計画が既にあるので実行するのですが、情報発信の面で市民に届いていないということであれば、「環境にやさしいまち」だと感じている市民の割合が伸びないという気がしました。ですから、「一部未達成」のところ、この防止計画の推進の指標みたいなものを将来考えられたらどうかと思います。

P60の施策の方向性シートの1つ目の指標で、「市民一人当たりの温室効果ガス排出量 平成2年度比(1999年比)」の2019年度の実績値はまだ出ていませんか。

事務局

出典が「とよなかの環境」で現在まだ数値が出ておりません。昨年度も評価結果を見ていただいた時には数値は出ていませんでした。公表する時点が1年遅れで数値が入るところになります。

部会長

それは分かっていますが、総合評価の理由のところに「約1,659トン減少し、平成29年度の実績値を下回りましたが、令和元年度の目標値(102,573トン)には達しておらず」と書いてありますが、その内容のバックデータはここではないのですか。

事務局

この102,573トンにつきましてはごみの焼却量になっており、P61の施策の方向性シートの説明になっています。

部会長

失礼しました。つまり温室効果ガスのデータは出ていないということですね。ということは、総合評価の理由にある「市域から排出される温室効果ガスの総排出量が削減され、地球温暖化への対策が順調に進んでいます」という言い方が定性的に書いてありますが、データがないのに書いてあるということになります。それはいいのでしょうか。

事務局

確かに今ご指摘いただいたところでは、数字が出ていないにもかかわらず、削減していると書いております。数字で表せない部分を書くのであれば、もう少し書き方を工夫していくこととよろしいでしょうか。

部会長

それでいいですので、意見集に書いておいてください。

この部分はCO2問題とごみ問題の2つの観点で低炭素循環型が政策として成り立っていて、まだまだ取り組むことがあるのでB評価にしていると思いますが、PDCAサイクルがまわっているかという、未達成の部分を達成するように次年度取り組むという趣旨になります。概ね順調に進んでいるが、一部未達成の部分もあるのでB評価にしていると思いますが、一部未達成の部分の内容がわかりません。

事務局

今部会長からご指摘のありました未達成の部分につきましては、前回の全体会でもご意見としていただいたこともあり、今回PDCAサイクルをまわすうえでは一部未達成という書き方ではなく、未達成の部分があるのであれば、その内容をきちんと書いてA評価にならない理由をここで示さなければならぬところが書けていないのではないかと思いますので、次年度以降、担当課には具体的に書くように伝えるべきと感じているところです。

部会長

そのように意見を取りまとめてください。

委員

総合評価の理由に記述を足していただいた方がいいと思うことがあります。PDCAサイクルをまわすという観点から申しますと、2つ目の○の最後に「さらなる取組みが必要です」とありますが、この「さらなる取組み」が何なのかは、このシートを見ただけではわかりません。しかしP61の施策の方向性シートを見ると、今後こうしていきたいということが具体的に書いてあります。今後の方針のところを見る限りでは、事業系ごみの減量について取り組んでいこうとしていると私は理解しました。そのことを総合評価の理由に書いていただいた方が、次の文章にある「一部未達成部分も見られる」という説明につながるのではないかと思います。

もう一つは、施策の方向性シートに関して、P61の施策の方向性シートの内容で見ますと、一般のごみももちろんですが、事業系ごみの量を減らしていくことが課題であると担当課は考えているように感じました。ここに指標として挙げてくださるとまでは言いませんが、せめて事業系ご

みが数字的にどのように推移しているのかということのをこれからしっかりと追って行って、評価シートに書かれる時もその数字を引用しながら説明を書くと、実績や成果、課題というものがよりわかりやすくなると思いました。

部会長

P61の施策の方向性シートには指標について、今は「ごみの焼却処理量」の1つになっていますが、家庭系と事業系に分けて指標を出してはどうですかというご意見です。

委員

より頑張らなければならないもの、頑張ったら成果が得られるものを数字として表しておくのも大事なのではないかと思います。そうでないと取組みの効果を見せることが難しいのではないのでしょうか。

部会長

豊中市は事業系ごみのデータを把握されているのでしょうか。

事業系のごみは広域で民間が集めて、市外に持って行っているケースも結構あるので、なかなか正確に把握するのは難しいとは思いますが。

事務局

担当課の方も集計として家庭系ごみと事業系ごみの排出量については経年で追っているところですので、計画の中で推移を把握しています。

部会長

それに対する減量計画というものを考えようという動きはあるのでしょうか。

事務局

豊中市は一般廃棄物処理基本計画を策定しており、その中で家庭系ごみと事業系ごみを経年で把握しています。目標設定についても各年で設定しているところです。

部会長

ありがとうございます。それでは、先ほどの委員がご指摘された、「もし指標を加えるとするならば」というご提言として、事業系も少し追えるようにしてください、あるいは書き方としては、総合評価のところから事業系の減量が少し足らなかったのがB評価になったとかいう表現にしてはどうかというご意見です。事務局、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。ご意見として取りまとめの方をさせていただきます。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第3章-3「都市基盤の充実」シート(P24)について)

部会長

私が読んだ感じでは、計画通りに進んでいて、結果も出ているのでいいように思います。

1つだけ気になったことを申し上げますと、P62の施策の方向性シートの指標で「下水道管路老朽化対策達成率」がありますが、昨年度の実績値が20.6、今年度が50.8となっていますが、こんなに劇的に上昇するのでしょうか。そもそも下水管の管路老朽化対策とは何でしょうか。下水管を替えるということでしょうか、それとも下水管の中をずっと巻いて行って内管を少し保護する工事のことですか。

事務局

少し説明させていただきます。どのような施設を改修しているかと言いますと、下水道の管路と下水処理場、ポンプ場なども計画をして老朽化対策として進めています。

部会長

素晴らしい取り組みだと思いますが、それに対して上水道をさす「老朽化水道管路改修率」と「水道管路耐震適合率」については目標値もそうですが、実績値が低いです。これはそういうものなのでしょうか。普通のマンションですと上水の方の管路変更が先で、排水の方が後回しになるイメージです。

事務局

指標のところに書いてある第2次とよなか水未来構想実行計画に基づいて、部会長のおっしゃるように上水と下水の進捗度合は違いますが、その計画の中で進めているとの確認はしています。

部会長

そういう意味では計画通りに進んでいるということですね。

委員

P62の施策の方向性シートの指標に関してですが、2つ目の「庄内・豊南町地区不燃領域率」の実績の推移を見てみると、これを見る限りでは2022年度の目標値までまだまだ遠そうに見えるのですが、これは先程の下水道と同様、こういうスケジュールで進めていくという計画通りなのでしょうか。

部会長

基本的に庄内・豊南町地区の地区改良というのは、50年位前からやっています。私が言うのもなんですが、かなり難しいことをしています。この地域の過密の住宅を全部取っ払って改良していくということになりますが、不燃領域率をこれだけ上げようとするのは大変なことです。事務局いかがでしょうか。もう少し上げられないのでしょうか。

#### 委員

目標値と実績に差がありすぎるので、文章だけを見たときに大丈夫なのかと心配をされる方が出てくると思います。この数字が誤解を与えたりしないのか心配でしたので、質問させていただきました。

#### 部会長

データとしてはあると思いますが、実績値として昨年度から1%上がっていませんよね。

#### 事務局

0.6%です。

#### 加藤部会長

0.6%ということは1%未満ですが、面積的に言うと結構な面積になるのではないかと思います。

#### 事務局

今のご指摘について、計画に基づいて実行しているかどうかの確認はできていないのですが、この指標の出典のところにある防災性向上ガイドラインでまず目標値を立てて、それを1つの目標として進めているところです。ただ委員からのご指摘のように、実績値の進行度合いを見ると若干大丈夫かと感じると思いますが、この目標に向かって市としては取組みを進めているところです。

#### 委員

都市基盤は目に見えてわかりやすいので、改良したところがよくわかり、豊中市に住んでいて非常に快適な暮らしをさせていただいてありがたいと思っています。特にこのシートに書いてあるように千里地区の歩道橋というか、橋梁の改修工事は実際私もよく通る所なので、かなり変わって、便利になったと感じています。質問ですが、バリアフリー化の進捗率も上がっていますが、これは具体的な場所とかを書かなくていいのでしょうか。千里は具体的に書かれていて、よくわかったので有難いのですが、他の地区のバリアフリー化も具体的に書かれた方がいいのではないのでしょうか。

#### 部会長

具体的に言うと、P63 施策の方向性シートの指標の3つ目の「住居地区のバリアフリー化の進捗率」でしょうか。

#### 委員

そうです。P63の施策の方向性シートの影響度の大きかった事業のところに「住居地区バリアフリー整備事業」と書かれていますが、工事を実施した場所とかを具体的に書かれたらもう少しインパクトが出るのではないのでしょうか。

#### 部会長

12%位があがっていて、具体的な場所がたくさんあって書けるかどうかということもありますが、もし千里中央地区がメインであれば、それを書いた方が具体的でインパクトがあり、市民にとってもわかりやすいというご指摘です。

それでは次のシートに移ります。

(第3章-4「魅力的な住環境の形成」シート(P25)について)

#### 委員

総合評価の理由の4つ目の○で、景観づくりについて書かれていますが、「まちの魅力を高める都市景観づくりについてはとよなか百景モバイルスタンプラリーの実施により、豊中市内にある魅力的な景観を、広く市内外の方に周知することができました」とありますが、この周知することと景観づくりというのは直接につながっているのでしょうか。景観づくりと周知することとは別のことではないのかと思っていたので、教えていただければと思います。景観づくりのところが施策の方向性シートを読んでもわかりませんでした。

#### 部会長

P68の施策の方向性シートの影響度の大きかった事業にある「都市景観推進事業」からきているのではないかと思います。私が景観審議会の会長をしていますので、そこで百景を選びました。とよなか百景は豊中市の良い景観を発掘するという目的で、地元の人にはあまり価値が見出されていないものでも、第三者あるいは観光的に見れば質のいいものを発掘して、そこで百景をつくりました。その認識を皆さんにも共有することがよい景観づくりの戦略的な政策という意味で「景観づくり」という言葉を使っているのではないかと思います。ハードな意味での変えるのではなくて、意識を変えるということも「景観づくり」の中に入れていていると思います。

#### 委員

わかりました。それで納得しました。

#### 部会長

総合評価の理由の1つ目の○で「岡町地区については、都市再生整備計画を策定し、都市再生の方向性を示しました。今後は、豊中地区についても地区の再整備に向けた具体策の検討を進めます」とありますが、これはまだ計画はできていないが、地区再生に向けて動き出しますということでB評価にしていますが、計画通りであるのならA評価でもいいような気がしました。計画通りにPDCAはまわっているのではないのですか。

#### 事務局

こちらの方は計画通りに進めているところです。

#### 部会長

B評価なのはちょっと控えめにやっているということですか。



#### 事務局

この項目は順調に進んでいますが、他の項目でも空港関係のところで若干の課題があるため、B評価という判断をさせていただいています。

#### 部会長

B評価というのは課題があって、見直しが必要ということで聞いています。概ね順調で一部取組みの見直しが必要だということであれば、課題はあるわけで、取組みの具体的な見直しを書いておかないとB評価にならないということです。先ほどの委員のご意見にも通じるところですが、施策の方向性の進捗状況はB評価が2つ、A評価が2つで総合評価をB評価としています。総合評価をB評価にした理由があいまいな気がしますので、総合評価をB評価と判断した理由をもう少し具体的に書いた方が市民にはわかりやすいのではないのかと思います。

#### 事務局

総合評価をB評価にした理由を担当課に確認しましたところ、P65(第3章-4-1)及びP66(第3章-4-2)の施策の方向性シートがともにB評価で、その理由としましては、P66の施策の方向性シートの今後の方針の1つ目の○にある「居住支援協議会」について、これから関係部局や不動産事業者、福祉事業者等々とのネットワークをもっと広げる必要があるところが課題という認識をもっているとのこと。このような課題があるという認識から総合評価をB評価としたとのこと。しかし、先ほど部会長からご指摘がありましたように、シートに書けていないので、担当課に伝えます。

#### 部会長

よくわかりますが、A評価が2つあり、ある意味でB評価の2つがそれを上回って、最終的な判断をB評価にしています。B評価の2つの方がより課題が大きいというようなことを書いていないと、総合評価の理由としては弱いのではないかという趣旨です。

#### 事務局

ありがとうございます。B評価であるならば、残された課題を具体的にもう少しわかりやすく書く必要があるということだと理解しました。

#### 部会長

わかりやすく、かつこれがA評価とB評価の数が同じ場合にB評価にした根拠になります。

#### 委員

P65の施策の方向性シートの成果の4つ目の○で「大阪国際空港周辺地域の整備のあり方を検討するため、整備状況の把握や課題の抽出等を行いました」とありますが、具体的にはどのようなことなのでしょう、事務局にお尋ねします。

#### 事務局

具体的な内容の資料を持ち合わせていませんので、次回までに確認させていただきます。

#### 委員

わかりました。また、問題点・今後想定される事項の5つ目の○で「未整備箇所の事業のあり方などの課題があり、関係機関や地元住民との協議が必要です」とありますが、具体的な内容を次回にでもあわせてお聞かせいただければと思います。

#### 部会長

それでは次のシートに移ります。

(第3章-5「産業振興の充実」シート(P26)について)

#### 委員

施策の方向性の進捗状況が2つともB評価ですが、市民の意識が20%に満たないということです。ここで言う「産業振興の充実」の産業というのは工業と商業の両方が入るのでしょうか。

#### 事務局

総合計画で書いている産業振興とは、工業と商業の両方含んでいます。

#### 委員

総合評価の理由の1つ目の○で「住工混在問題が発生する可能性がある」とありますが、市でもこの問題に対して積極的に取り組んでいて、随分と均衡しているようなので、B評価からA評価にならないものかと思っています。また3つ目の○で「起業・創業支援については、起業相談が増加している」とありますが、いろいろとスタートアップ起業があると思いますが、A評価になるためには一体どういうことをすればいいのでしょうか。このシートを担当している都市活力部の方はどういう成果を上げればA評価になるとお考えなのでしょうか。「地域産業が活性化していると感じる市民の割合」のところで市民の意識が20%を切っている中で、都市活力部の方が一生懸命頑張られてA評価になるためには具体的に何を達成すればいいのでしょうか。

#### 事務局

何が実現できたらA評価になるのかについては、詳細を担当部局に確認したうえで改めてお答えしたいと思います。

#### 委員

例えば起業家の方がスタートアップ拠点であるとよなか起業・チャレンジセンターへ毎月、もしくは年間で何名来られたとか、具体的な数字があればそれなりのプロモーションもできると思いますが、何となくあいまいでPDCAが果たしてまわるのかと疑問に感じました。

## 部会長

地域経済の活性化のところではいつも議論になると思いますが、P69 や P70 の施策の方向性シートに書かれている内容が少ないように感じます。例えば P69 の施策の方向性シートでは、影響度の大きかった事業として「企業立地促進事業」と「中小企業チャレンジ支援事業」の2つの事業が掲げられています。この中にある程度の目標値があればいいんでしょうけれども、その目標値がありません。

## 委員

1 つはとよなか起業・チャレンジセンターへ来られる方について、目標として何か具体的な数字があれば、これに対する施策が出てくると思います。やはり近隣市で開業するよりも豊中市で開業してもらうようになれば、市の施策も変わってくると思います。数字目標が何もない場合は打つべき手が打てないのではないのかと思います。現在コロナの問題で補助金とか出ていますけれども、毎月会議所には約 30 社の方が相談に来られていて、これは他の北摂の都市に比べて、豊中市の商工会議所が一番相談の件数が多いと思います。ですから、何か施策があればとよなか起業・チャレンジセンターにもっと多くの方が来られて、豊中市で起業される方がもっと増えるのではないのかと思いますので、積極的に目標をもたれて、PDCAをまわすことでA評価につながっていくのではないのかと思います。

## 部会長

ありがとうございます。B評価は致し方ないとしても、P70 の施策の方向性シートの今後の方針の1つ目の○で「(仮称)新・産業ビジョンの検討において、とよなか起業・チャレンジセンター機能の見直しと整理を行い、今後の方向性を明らかにします」とありますので、とよなか起業・チャレンジセンターのあり方や(仮称)新・産業ビジョンをきちんと作ることを含めて、そういうことも少し付け加えて総合評価に書いた方がA評価になっていくというイメージも沸くというご指摘です。

## 部会長

それでは次のシートに移ります。

(第4章-1「共に生きる平和なまちづくり」シート(P27)について)

## 委員

全般的に文字が多いので、市民にとって読みにくいのではないかと思います。

まず総合評価の理由の1つ目の○では「人権平和センター開設に向けて～」と開設に向けての準備について2文に分けて書いていますが、この辺はもっと短くできるのではないかと思います。市民にとってもっとわかりやすい文章を心掛けていただきたいです。

2つ目の○では「人権についての市民意識調査を実施する」とだけ書いてありますが、P72 の施策の方向性シートの成果の1つ目の○では「人権についての市民意識調査を実施した結果、本市の人権啓発や人権教育を進めるうえでの課題が明らかになりました」と書いてありますので、その部分を総合評価の理由のどこかに書くべきではないかと思います。単に実施したということよ

りもそこから何がわかったのかとか、何を市が課題だと思って次の施策に活かしていくのかというところをどこかで触れるべきではないかと思いましたが、私もそこが一番知りたいので、そこを書いてもらいたいというのが要望です。人権啓発パネルの作成に関しても、「従来の人権課題別ではなく、総合的・横断的な人権啓発パネルの作成に取り組みました」とありますが、これは一体何だろうと疑問に思いましたし、特に「総合的」という言葉はいろいろな箇所に出てくるので、そこはもう少しわかりやすく書かないといけないのではないかと思います。

3つ目の○では「その結果、本市の男女共同参画社会の実現に向けて新たな視点で物事を捉えることができました」とありますが、「新たな視点」とは何かを知りたいですので、具体的にどのようなかという部分をきちんと書いてもらいたいと思いました。

4つ目の○では、A評価であることはいいのですが、P74の施策の方向性シートについて、以前に他の委員も仰っていたのですが、ここの事業がほとんど国際交流センターと市役所で行っている、外国人向けの施策だけ書いています。特に指標について申しますと、日本人に対してどのように働きかけるのかという指標がいるのではないかというのが1つです。

また、P72の施策の方向性シートの指標の1つ目で「人権ケースワーク事業の相談件数」がありますが、2018年度の実績値が90件、2019年度の実績値が95件に対し、2022年度目標値が200件と大幅に増えます。ここまで大幅に増えるのは何故なのかが気になりましたので、教えていただきたいです。同じく4つ目の指標に「人権問題事業者学習会の参加人数」がありますが、これを指標にするよりも、例えばP73の1つ目の指標にある「男女共同参画を推進する学習講座数」のように、どれだけ市が市民に働きかけるということ指標にしてはどうでしょうか。人数というのは誰を呼ぶかで増えたり減ったりしますので、それよりも市がコンスタントに市民に向けて情報発信をしたり、学習の場を設けるといような講座数とか講演回数とかを指標にする方がわかりやすいのではないかと思います。

#### 部会長

私を知る範囲では、総合評価の理由の3つ目の○にある「新たな視点」についてですが、すてっぷの指定管理者選定評価委員会を行ったときに、この「新たな視点」とはLGBTのことでした。これまでの男女共同参画ではあまり問題にならなかったのですが、今では男女の境界をひくような言葉自体がおかしい、時代遅れだという意見だったと思います。

#### 委員

大阪府がパートナーシップの施策を作って、それが豊中市でも適用されることになります。そういう意味では施策の方向性シートの中に、同性パートナーの証明書を発行することも豊中市もやりますというような具体的なことを書いた方がいいと思いますし、施策シートでも「新たな視点」だけ書くのではなく、もう少し他のところを縮めてでも、豊中市の新しいことなどを市民に向けての情報発信としても書いていくべきだと思います。

## 部会長

行政なので、ある程度熟してこなければ書けないという変な忖度があったようにも思います。

公開されていない会議で議論している時は割とスムーズに出る言葉が、こういう一般公開になる文章だと、どうしても抽象化してしまい、それがわかりにくさにつながっているようにも感じますので、ご指摘いただいたことで書ける部分がであれば、是非入れたらいいのではないかと私も思います。

総合評価の理由の1つ目と2つ目の○でいただいた、簡潔にできるところと課題をきちんと明確に書けるところは書くべきだというご指摘については、その通りだと思いますので、来年の文章ではそういう意見にまとめさせていただきたいと思います。

先ほども申しましたが、施策の方向性の進捗状況でA評価が2つ、B評価が2つの場合は、総合評価をB評価とした理由を具体的に書く必要があります。どこが足りていないのでA評価にならないのかを書くことでわかりやすくなります。先ほどの委員のご指摘を整理していく中で、そのあたりも出てきそうな気がします。あるいは2つ目、3つ目の○の文章を整理することでB評価だということをより印象付けられる文章になるのではないかと思います。事務局そのようにまとめていただけますか。

## 事務局

そのようにまとめさせていただきます。

## 委員

これも前から申ししていますが、P72の施策の方向性シートの指標で、他の人権課題はいろいろなところに指標が入っていますが、同和問題、部落問題だけは文章としては書いていますが、指標として設けられていません。私は入れるべきだと思います。例えば年に少なくとも1回ぐらいは部落問題の講座の機会をもつとかでもいいと思いますので、繰り返し言っておきたいと思います。

## 部会長

同和問題の啓発事業ということですか？

## 委員

同和問題という言葉は文章に入っていますが、指標の中に部落問題を意識したものが盛り込まれているとは言い難い部分があります。他の人権問題については福祉分野か少なくともどこかで網羅されていますが、部落問題だけは網羅されていない部分があると感じましたので、意見を述べました。

## 部会長

それでは次のシートに移ります。

(第4章-2「市民文化の創造」シート(P28)について)

## 部会長

このシートは、他のシートに比べて文量が少ないように感じます。このシートは創造と保全・保存の2つの側面が1つになっています。P75の施策の方向性シートを見ると、創造の面で市民ホールの指標が4つあり、保存の面で文化財啓発の指標が1つです。創造と保全どちらも重要ですが、保全の活用の扱いが非常に小さいように思います。たしかに国とか府の事業に依存せざるをえない部分はあると思いますが、P28の総合評価の理由にある「計画や構想の策定に取り組んでいく必要があるため、施策全体の評価を「B」としました」と保存の面だと思えます。これだけだと創造の方はうまくまわっているように感じます。これをB評価するのであれば、もう少し具体的にその中身を書いていたideきたいです。何を見直さなければいけないのかという部分です。

## 委員

市民目線で言いますと、この項目はすごく重要で、豊中市は「文化都市」と位置付けられると周りの方とか私の職場とかとかも含めて捉えております。個人的にもB' zの松本さんが豊中市出身ということで、すごく興味があり、世間的にも豊中市は「文化都市」というイメージがありますので、この評価シートはもう少し力を入れて書いた方がいいように思います。文化芸術センターを作って、また市民ホールを最大限に利用して、いろいろな芸術家や音楽家の方を招いたりする実績もありますので、この文化都市である豊中をアピールする意味で、A評価にしてもいいように個人的には思いました。P75の施策の方向性シートの指標を見ても、一部は悪いところもありますが、市民ホールの利用率であったり、他の都市にはない文化的な色彩をかなり感じるのので、もう少し自信をもって、内容ももう少し充実して書かれた方がよさそうな施策シートではないかと個人的には思いました。

## 部会長

私も同感でして、総合評価をB評価とした理由がよくわかりません。あえてB評価ということにこだわるのであれば、先ほどご指摘した保全・保存の施策の方に少し課題があるのではないかと思います。それにしても「文化的なまちであると感じている市民の割合」が2017年度は57%、2019年度は58.6%とほとんど変わっていないことはいいとしても、絶対数が6割弱というのは、この辺の弱みが影響しているような気がします。しかし、計画の進捗管理とPDCAサイクルの観点から言いますと、A評価でもいいのではないかと思います。

## 委員

私も全体を見ていて、B評価にしなくていいように思っていました。当然今後解決しないといけない課題、問題点というものは今回の新型コロナウイルス感染症の流行ということもあって、そのことにも結構しっかりと書かれているので、そっちに引っ張られたような印象があります。市民文化の創造というところというと、やはり施策シートにはあまり書かれていませんが、市民ホールを上手に使って鑑賞の機会をたくさん提供できているということであるとか、影響度の大きかった事業のところにワークショップやアウトリーチの普及育成事業を展開しているということもちゃんと書いているので、例えばどういうターゲットに向けて行ったとか、何回開催した、新しくこんなことを始めたということを施策シートにしっかりと書いていくことでA評価にしやすくなるのではないかと思います。

## 委員

私も皆さんと同じように、まさに「音楽あふれるまち」ということで全体的な文化度は高いと思います。いろんな文化財もありますので、ここのB評価は辛口ではないかと私も思います。

## 部会長

それでは次のシートに移ります。

(第4章-3「健康と生きがいづくりの推進」シート(P29)について)

## 部会長

ここでは2つの施策の方向性がある、「生涯を通じた学びの機会の充実と成果を活かせる機会づくり」がB評価で、「生涯を通じて、健康で生きがいをもって暮らせる環境づくり」がA評価ということです。これも総合評価がB評価ということですが、健康の方は進んでいるけれど、連携が足りないのがB評価としたということでしょうか。

## 委員

総合評価の理由の最後の一文にある「引き続き関連部局、機関と連携した取組みを進めていく必要があるため」というところをもっと具体的に書かないとたぶん次の施策につながらないと思います。どういう関連部局とどういう連携をとるのかを具体的に書いていただきたいですし、知りたいと思います。

## 部会長

B評価をつけた理由を含めて説明できるような書き方をしてくださいというご指摘です。

P77の施策の方向性シートの指標の3つ目に「65歳以上人口に占める要介護認定率」がありますが、実績値が20%ぐらいで推移していて、2020年度は減少という目標を置かれていますが、おそらく高齢化社会で高齢者が増えるから%で表していると思いますが、その見直しは必要ないのでしょうか。ここでの減少は、65歳以上の人口は増えるけれども、要介護認定率は今より減少するということはリアリティがあるのか心配に思いました。目標値として減少と出しているのは、どこかで計画を作っているのでしょうか、事務局いかがでしょうか。

## 事務局

この施策を通じて、健康で生きがいをもって暮らすことで、要介護認定を受けなくても生活できるような高齢者を増やすことをめざすという意味で、減少という目標を置いています。しかし実際には増えているのが現状です。部会長が仰るように、高齢者の母数が増えていて、後期高齢者の方も増えているということもありますので、75歳を超えると要介護認定を受ける方がどうしても増えてしまうという実態もあります。

部会長

そのあたりのことも含めて、P77の施策の方向性シートはA評価になっているわけですね。しかし総合評価はB評価ということですので、B評価にした理由をきちんとここで書いていただきたいということです。

委員

P77の施策の方向性シートの今後の方針のところの4つ目の○で、この文章の意図が私はよくわかりません。今後の方針と言っている割に、とても抽象的なことを書いているような気がします。もし可能ならば、自主グループを増やしたいと思っているのであれば、そのために一体何をするのか、何をしたいと考えているのかということを書いた方が、来年度以降評価をして、またPDCAサイクルをまわすうえでは大事ではないかと思います。

部会長

要するに、要介護状態にならずに自立した生活を継続する高齢者を増やすことで、要介護保険制度の安定的運営を図るという今後の方針をもつということですね。そうであるならば、前半部分はいらないように思います。

委員

私は自主グループを増やすために何か支援をしていこうという決意が書かれているのではないかと思います。

部会長

それは計画または政策のところでは書かれていましたでしょうか。

委員

ここにはないです。ですので、ここだけ浮いているというか、前後が合っていないという印象を受けます。

部会長

自助・共助・公助を進める中で、公助はなるべく節約しようというのが国の路線です。自主グループが増加するだけでは、市民の目線ではわからないというご指摘だと思います。

事務局

要介護認定のところのお話ですが、データとしては、前期高齢者の要介護認定率がここ5年間減少傾向にあり、この方々が75歳を迎えるまで今の健康な状態を維持していただきたいという思いが担当課としてはあります。豊中市が今取り組んでいるところとしましては、P77の施策の方向性シートの成果の1つ目の○に書いてある「とよなかパワーアップ体操」で要介護認定にならないように運動等をして、健康を維持するという自主グループがどんどん増えていっている現状があります。この取り組みをどんどん進めていくことで今の前期高齢者の方々が後期高齢者になられても健康な状態を維持していけるという意味でこういう風に書いていると思われそうです。



部会長

要するに、2025 年を境に後期高齢者が大幅に増えるので、介護保険制度がより厳しくなるという見通しがあることと、それを自主グループの体操で元気を維持していくということですね。総合評価の理由の書きぶりについては、壬生委員いかがでしょうか。

委員

総合評価の理由の 2 つ目の○については理解できました。

部会長

先ほども申しましたが、総合評価が B 評価ですので、A 評価ではなく、B 評価にした理由をきちんと書いていただきたいと思います。

今回の部会で出た意見については、私の方でまとめさせていただいて、次回の総合計画審議会でご報告させていただきます。

それでは、案件 4 「その他」について事務局から説明してください。

●案件 4 「その他」

事務局

次回の会議についてご説明いたします。本日の次第をご覧ください。本日、第二部会で見ただけ評価シートをすべて見ていただきましたので、次回は 12 月 4 日（金）18 時～20 時の第 2 回全体会、開催方法は本日と同じ Zoom による WEB 会議を予定しております。

部会長

何か最後に質問・意見はございませんか。

（特になし）

部会長

本日の案件については、すべて終了いたしました。これをもちまして、第 1 回豊中市総合計画審議会を閉会します。みなさん、お疲れさまでした。

以上